

令和 5 年 8 月 23 日

令和 4 年度 特別の教育課程の実施状況等について

岡山県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
学校法人就実学園 就実小学校	岡山県教育委員会	私立

1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表	学校関係者評価結果の公表
学校法人就実学園 就実小学校	https://www.shujitsu-e.ed.jp/information/8889/	https://www.shujitsu-e.ed.jp/information/8888/

2. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

これからの時代に於いて必須となるグローバルな視野を持った人材を育成するため、小学校1年生～6年生において、土曜日を開校日とし、「英語科」を新設する。(1年生は、週1時間の外国語活動と週2時間の英語科を合わせて週3時間)。2年生では、週3時間の英語科を新設することとする。

なお、3年生からは総合的な学習の時間(年間70時間)の学習時間の中で、異文化・国際理解分野における学習を統合・発展的に行うと共に、週2時間の英語科を新設することで実践的英語力を培うことができるようにする。これを実現するために、英語を母国語とする常勤の外国人教師6名を配置する。この「英語科」の新設主眼は、グローバル化する社会を見据え、先進的な教育方法を探求しながら、国際理解と実践的英語力の養成にある。

加えて、算数(1～4年生)・図工(1～6年生)・体育(1～6年生)の3教科を英語(イメージ教育)で行う。

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本校が所在する岡山市には外国人居住者が年々増加してきており、特に岡山市内に所在する5つの大学への留学生が急増している。その留学生との交流・交歓を通して、国際理解を深めるよう努力してきた。加えて、日本の労働力人口の減少に起因して外国人労働者が本市へも流入してくることも予想され、グローバルな視野を持つ人材を養成して、彼ら外国人と共生していくことが必須の課題となることに鑑み、特別な教育課程を編成・実施していく必要がある。

(3) 特例の適用開始日

平成31年4月1日

(4) 取組の期間

令和5年3月31日まで

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
 - ・一部、計画通り実施できていない
 - ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

- ・ 校内研究において、本年度は《子供たちが主体的・対話的に深く学ぶための環境づくりと授業開発について～3つの柱を中心とした指導力・技術力の向上を目指して～》という研究テーマを設定し、学年・学級経営、就実型イマージョン教育、創造性を育む ICT 教育の研究に取り組んだ。
- ・ 特に、授業研究では、研究の視点を「好ましい人間関係づくり」「一人一人の居場所づくり」「自分らしさが輝く場面づくり」の3点とし全教職員が参加して校内授業研究、研究協議を行った。
- ・ 各イマージョン教科部会による課題研究や英語で積極的に交流できる場の設定（学校行事・姉妹校関係行事・校内スピーチコンテスト等の計画や検証）、ホームルームにおけるイマージョン環境の工夫（上学年からイマージョン教員による1日担任など）に重点をおき、取り組んだ。
- ・ 就実型イマージョン教育を推進していくための基本方針である「就実小学校 Language Policy」を策定し、児童・保護者・教職員で共通理解を図った。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
 - ・実施していない

<特記事項>

- ・ 参観日では、イマージョンの授業を公開している。
- ・ オープンスクールの際には、イマージョンの授業を公開するだけでなく、イマージョンの取組を説明し、児童の英語のスピーチ等を見てもらったり、英語体験を実施したりしている。
- ・ 学習発表会では、英語劇や英語の歌を発表したり、研究したことを英語でプレゼンテーションしたりしている。
- ・ SWCC (Shujitsu World cultural Celebration) という上学年児童が下学年児童に、グループごとに調べた国について、英語でプレゼン発表をしたり、作成したゲーム等を体験してもらったりする行事を実施し、参観日として保護者に公開した。
- ・ 2週間の授業参観週間を設け、就実学園のこども園から大学まで全校種に案内をして、多数の先生方や学生にイマージョン授業を参観していただいた。

4. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

本校の学校教育目標である「グローバル社会の担い手として、未来をつくる就実の子を育む」の実現に向けて、就実型イメージ教育の推進に全教職員一丸となって取り組んできた。

その結果、全体としては、児童の意欲面の育成において目標値を大きく上回る成果となった。

また、卒業時の目標レベルである CEFR A2～B1 を、卒業生の 96.9% (2023.1 実施 TOEFL 結果より) が達成できており、6か年のイメージ教育の成果が客観的なデータからも把握できる。

しかしながら、英語を苦手としている児童も一定程度いる。英語能力においては、日常的な学習の様子や TOEFL・ケンブリッジ英検の結果から考察して、4技能の育成において、Reading と Writing に課題がある。

(2) 就実ビジョン120に示す学校教育の目標との関係

就実学園では、学園創立120周年への道しるべとして、「就実ビジョン120」を作成している。ビジョンの4つのテーマの1つである「国際交流」において、国際化・多文化共生社会の推進が掲げられている。それを受け、本校では、多様な文化や考え方があふれる国際社会において、自分の力で考え、生き抜く力をつけるために、英語力と並行して、日本語力の向上を図っている。また、英語に日常的にふれることができる教育課程や教育環境をつくることで国際人としての素地を育てている。令和4年度も、コロナウイルス感染症対策のため、オーストラリア研修や国際交流会が実施できなかったが、夏休みにはたくさんの外国の人と英語だけで過ごす English Camp (4～6年生の希望者50名が参加) を実施し、学校で学んだ英語を実践で生かすことができる場を設定した。

5. 課題の改善のための取組の方向性

今後は、『一人もとりこぼすことがないよう、個別でのきめ細やかなサポートに関する研究』と『Reading と Writing に関して、技能面の向上を図るための研究』がさらに必要と考えられる。

課題の改善のために、次年度以降も、校内研究で就実型イメージ教育の推進を図るとともに、「各学年のイメージ教科年間指導計画」と「English 及び Math の各学年使用教材、到達目標の目安」の見直し、さらに、「就実小学校 Language Policy」の更なる充実に向けて研究し、全教職員の共通理解のもとに取り組んでいる。

また、令和4年度1月から探究的な学びを通して英語力の向上を目指し、『Math プロジェクト』の研究に、外国人外部講師の招聘をして取り組んでいる。これは、Mathに限らず、他の教科においても探究的な学びとなる授業設計をできるよう、校内研究として、全教職員で取り組んでいる。